

# 麻しん・風しん混合ワクチン予防接種を受けるにあたっての説明

## ● 麻しん（はしか）とは

麻しんウイルスの空気感染によっておこり、主な症状は、発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんです。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また3～4日ほど39～40℃の高熱と発しんが出てきます。感染から回復までの間、免疫機能が低下して合併症がおこりやすく致命的な事態を招くことがあります。

なお、麻しんワクチンは、ニワトリの胚細胞を用いて製造されており、卵そのものを使っていないため卵アレルギーによるアレルギー反応の心配はほとんどないとされています。しかし、重度のアレルギー（アナフィラキシー反応既往）がある場合は、その他の成分によるアレルギー反応が生ずる可能性もあるので、かかりつけ医に相談してください。

## ● 風しんとは

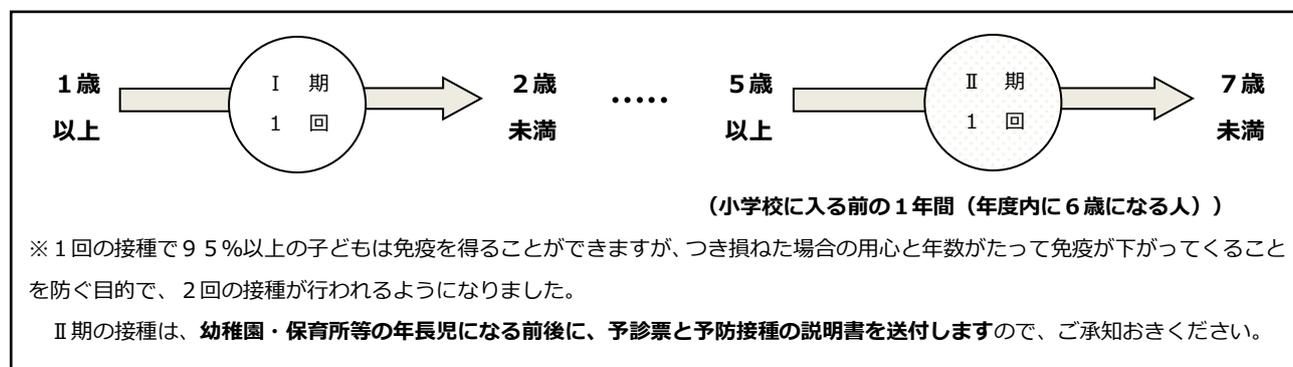
風しんウイルスの飛沫感染によっておこり、主な症状は、軽い風邪のような症状ではじまり、発しん、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが出てきます。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発しんも熱も約3日間で治りますので「三日ばしか」とも呼ばれます。まれに関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などの合併症がおこることもあり、大人になってから感染すると重症になります。

## ● 接種年齢：Ⅰ期は1歳～2歳未満、

Ⅱ期は5歳～7歳未満で小学校就学前の1年間（年度内に6歳になる人）

※幼稚園・保育所等の年長児になる前後に、予診票と予防接種の説明書を送付します

## ● 接種スケジュール：Ⅰ期は1回、Ⅱ期は1回



## ● 主な副反応

副反応の主なものは、発熱や発しんです。これらは、接種後7～10日に多くみられます。接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発しん、そう痒（かゆみ）などがみられることがありますが、これらの症状は1～3日で治癒します。

まれにおこる重症な副反応としては、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症およびけいれん等がみられます。